

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年全学科
使用教科書	光村図書『書Ⅰ』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に散り組みます。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 学習計画

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学期	4	ガイダンス 楷書の学習 ①孔子廟堂碑 ②牛橛造像記	・「書写」と「書道」の違いを知る ・文房四宝について理解する ・漢字の成立と変遷を理解する 【古典作品の学習】 ・時代背景や作者、内容等を理解する	6	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
	5	③鄭義下碑 ④雁塔聖教序 ⑤顔氏家廟碑	・用筆、結構の特徴を理解し、臨書する ・作品を鑑賞し、その美について理解する	6	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
		1学期中間考査						
	6	競書大会	・学習してきた楷書を振り返り、題材とする古典を選択し、作品を制作する	8	○	○	○	
		1学期期末考査						
	7	生活の中の書 篆書の学習	・履歴書などの書式について理解する ・篆書の成立や特徴について理解する	4 4	○ ○	○ ○	○ ○	

2 学 期	8・9	篆刻の学習	・落款の意味、作業手順を理解し、白文印を刻す	8	○	○	○	
	10	行書の学習 ①蘭亭序 ②風信帖 隷書の学習 ①曹全碑	【古典作品の学習】 ・時代背景や作者、内容等を理解する ・用筆、結構の特徴を理解し、臨書する ・作品を鑑賞し、その美について理解する	8	○	○	○	
	2学期中間考査							
	11	漢字による創作	・創作の手順に従い、様々な書体を用いて創作をする	8	○	○	○	
	2学期期末考査							
	12	漢字仮名交じりの書の学習	・漢字と仮名の調和を考えて創作する ・紙面構成、用具用材の使い方などで表現に変化をつけられることを理解する。	6	○	○	○	
3 学 期	1	仮名の学習	・仮名の成立と変遷を理解する	12	○		○	
	①	いろは	・用筆、結構を理解し、習得する		○	○	○	
	2	②連綿	・連綿の技法と仮名の美を理解する		○	○	○	
	3	③高野切第三種	・古典を臨書し、鑑賞する		○	○	○	
	学年末考査							

計 70 時間(50 分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	(1)書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解しようとしている。【知】 (2)書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表そうとしている。【技】	書のよさや美しさを感じて、意図に基づいて表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えようとしている。	主体的に書の表現および鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・提出作品の内容(技能面) ・小テスト などから、評価します	以上の観点を踏まえ、 ・提出作品の内容(表現面) ・ワークシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習意欲、態度 ・出席状況、課題提出状況 ・用具用材の取り扱い方 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・毎時間の提出作品、学習記録シート、ワークシート、小テスト等

6 担当者から一言

小・中学校での書写とは違い、芸術教科としての「書道」を学んでいきます。書写では体験できなかったさまざまな筆の使い方や表現方法に触れ、文字を題材とした自己表現の楽しさを味わってみたいと思います。定期考査は実施せず、毎時間の提出物と授業に取り組む姿勢が評価対象とします。真剣かつ意欲的に学習に取り組みましょう。

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年全学科
使用教科書	MOUSA1				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる能力を育成する。 ②体験的な活動を通して、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- （２）自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- （３）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていける態度を養う。

3 指導の重点

- ① 発声の基本を学習しながら、歌うことの楽しさを感じる心を育てる。
- ② 基本的な音楽理論を習得し、読譜力を育てる。
- ③ 楽器に応じた奏法を身に付け、視奏力の充実とともに個性豊かな表現の育成を目指す。

4 学習計画

※知識・・・知識・技術、思考・・・思考・判断・表現、
主体・・・主体的に学習に取り組む態度

学期	学習項目	学習内容	時間	評価方法と観点
1 学期 (22)	独唱曲を歌う	・腹式呼吸による発声で歌う。 ・正確なリズムと音程で歌う。 ・日本語の美しさを表現する。 ・原語で歌うことで、楽曲の特徴をしっかりと捉える。 ・基本的な楽語を習得する。	11	・授業の取り組み (主体) ・歌唱テスト (思考) ・筆記テスト (知識)
	器楽① ギターの実習	・基本的な奏法を習得し、弾き語りに挑戦する。	11	・授業の取り組み (主体) ・ギター実技テスト (思考)
2 学期 (28)	合唱の響きを味わう	・各パートの役割を理解する。 ・ハーモニーの美しさを体感しながら合唱する。	6	・授業の取り組み (主体) ・グループによる発表 (思考)
	器楽② ヴァイオリンの実習	・ヴァイオリンの基本的な奏法を学び、簡単な楽曲を弾く	6	・授業の取り組み (主体) ・実技テスト (思考)
	西洋音楽の歴史を学ぶ	・プリントで西洋音楽の歴史を学び、その時代の音楽を鑑賞する。	8	・プリントの提出 (主体) ・筆記テスト (知識)
	器楽③ オカリナの実習	・オカリナの基本的な奏法を学ぶ ・オカリナ独特の響きを感じ取る。	8	・授業の取り組み (主体) ・実技テスト (思考)
3 学期 (20)	器楽④ ハンドベルのグループ活動	・ハンドベルの演奏方法を学ぶ。 ・グループを決め、選曲をする。 ・楽曲全体の流れを感じながら、アンサンブルをする。	8	・授業の取り組み (主体) ・グループ発表 (思考)
	創作に挑戦	・音階の特徴を生かし、自己のイメージに合った音楽を作る。	7	・発表 (主体・知識)
	全体合唱	・全員で最後に合唱を歌う	5	・授業の取り組み (主体)

合計 70 時間(50分授業)

5 指導の重点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽に対する理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけている。	音楽を形作っている要素の働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持って演奏している。	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組んでいる。
評価の方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・発表 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・筆記テスト などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み ・プリントの提出 などから評価します。

6 担当者からの一言

音楽は、表現・鑑賞・創作と様々なアプローチがあります。その様々な分野に新たに挑戦するつもりで、取り組んで下さい。評価は結果だけでなく、習得していく過程も重要です。毎回の授業を大事に意欲的に取り組んで下さい。興味あるものだけでなく、様々なジャンルの音楽にチャレンジし、音楽を通して自分を表現する楽しさを感じ取れるようになることを期待しています。